

# FC情報

フランチャイズ

しかし50分を過  
場合は、食べ時  
を判断して処  
と割り切ってい

「マルシゲ」に経済産業省  
が行政指導を

大阪を中心に「お菓子の  
専門店」で知られる「マル  
シゲ」が、加盟希望者に対し  
て「これ以上の説明は加盟  
金を払い込んでから」と、  
事前の情報開示が不十分な  
まま加盟店を拡大している  
問題で、中小企業庁が調査  
に動き出した。

全国F&C加盟店協会が中  
小売商業振興法に違反し  
ていると「告発」したこと  
に応えたもの。

大阪のA氏の例では「マ  
ルシゲ」は一定の説明をし  
た後、「これ以上の説明を  
求めるなら加盟金を払え」  
と次つぎに金を払い込ませ  
ました。

その後ようやく「契約書  
を求めました。A氏はそ  
の場で契約は拒否、数日  
後に「契約しない」と回答  
しましたが、マルシゲは「加  
盟者」とみなす」として、加  
盟金その他の返金に応じな  
いという姿勢を続けていま  
した。

その後、加盟店協会の働  
きかけもあって、一定額は  
返金する変化がありました  
が、A氏の納得のいく金額  
ではなく、抗争中です。中  
小企業庁は「本部と事業開  
係を照合し、必要があれば  
情報開示するよう指導す  
る」としています。

「マルシゲ」と加盟店の  
間では、ほかにも当初の売  
り上げ手割と実際の違い過  
ぎるなど、裁判を含めて紛  
争が多発しています。

セブン上告の最高裁で、加  
盟店が異例の口頭陳述

セブンイレブンが廃棄商  
品にチャージを課している  
のは、契約書に明記がない  
ため説明義務違反であり、  
その間に支払ったチャージ  
は不当利得だとした裁判  
で、東京高裁が加盟店勝訴  
の逆転判決を下した注目の  
事件。セブン側は高裁判決  
を不服として最高裁に上告  
していました。

2年以上経過した4月13  
日、最高裁第2小法廷で弁  
論がおこなわれ、加盟店の  
H氏の5分間、陳述があり  
ました。H氏は、重ねて説  
明がなかった事実を焦点を  
合せて陳述しました。次  
回、6月18日の判決と決ま  
りました。

この問題では最高裁はい  
ったん、上告棄却の決定を  
しましたが、同日セブン側  
が「意見書」を提出、それ  
が認められ、13日に開廷さ  
れたという経過がありま  
す。

## 澤登 翠

ことを、今回  
きながら知る  
て、ファンと  
見た思い

無声映画にか  
ずをしていて  
いことが多

であったワイ  
自身はパリか  
へ行き無事で

したが、母親や縁者を収  
容所で失っています。

彼の映画には、温かさ  
の中にキツとするシニ  
カルな味わいがあります  
が、自分のつらい体験、  
屈折と陰影に満ちた青春  
期、感受性の深さと鋭さ  
が、映画作りの底にたた  
えられているのではない  
かと思えます。「サンセ  
ット大通り」も辛辣でし  
て、

監督や作品の再発見が  
弁士の仕事の支えにもな  
る。

つていますが、6月21日  
に神戸銅町の学生会館で  
上映するワイルダーと同  
じくオーストリア出身の  
巨匠フリッツ・ラングの  
無声映画「ドクトル・マ  
ブゼ」(ドイツ映画)に  
も、これかめつくりの内  
容を見ていくと、意外な  
発見と驚きがありそう  
な気がします。ドクトル・  
マブゼと呼ばれる変わっ  
た、とんでもないおじさ  
んの話なのですが、何だ  
か今の時代にもいそう  
な人物なんです。起伏に  
富んだ作品ですでお薦  
めです。

(さわと・みどり、活  
動弁士)

## 全国高専の先生による ものづくりのたね

## 機能性高分子材料の開発

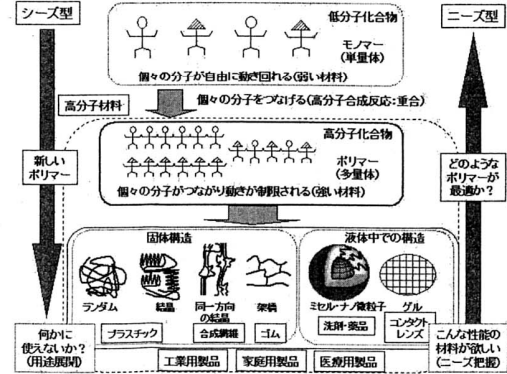
小山工業高等専門学校物質工学科講師 飯島 道弘

するのかを考えてみましょう。まず、低分  
子化合物(モノマー)が、ある条件により  
個々がつながる反応を起こします(重合反  
応)。それにより、得られたものが高分子  
(ポリマー)であり、ひものように長い構  
造となります。そのため、個々の絡み合い  
が生じ、熱的・力学的にも安定した材料と  
なります。

さらに、固体中での構造や溶液中での凝  
集形態も多種多様であり、最終的な材料特  
性に反映してきます。このように、モノマ  
ーの組み合わせ、ポリマーの長さ、形、固  
体構造などの違いで発現する性質がまったく  
異なるため、未知の可能性を秘めている  
材料といわれています。このような新しい  
ポリマーの開発法としては、研究者が新し  
いものを作り、新用途を開拓する「サイズ  
型」と、市場などの具体的ニーズをもとに  
最適な構造を選択して、新しい高分子材料  
を作り出す「ニーズ型」が代表的です。

特に、最近では多種多様なニ  
ーズ型研究が多くなっており、精密な構造制御が要求され  
ています。医療分野でもその例  
に漏れず、高分子材料に寄せら  
れる期待が高まっていますが、その要求性能が多岐にわた  
ることなどから、研究開発は容  
易ではないというのが現状で  
す。

小山高専では、特に医療分野  
でのニーズを中心に、新しい高  
分子材料の精密分子設計をお  
こなっています。例えば「副作用が少なく、  
効果的に薬を効かせるには？」というニ  
ーズに対して、刺激(温度やpHなど)に応答  
する新しいタイプの高分子で薬を包み込  
み、患部付近でのわずかな環境変化に対し  
てのみ薬を放出でき、少量投与で効果的な  
システムの開発を大学と共同で研究してい



高分子材料の開発方法概念図

ます。これらのシステムで用いる新しい高  
分子は、医療分野だけでなくさまざまな展  
開が期待できる材料です。これからの高  
分子材料開発のためには、さまざまな分野の  
人との情報交換の後、マクロな視点からニ  
ーズを的確に把握して、環境面にも配慮し  
ながらミクロな視点で新しいものを作り出  
すことが重要であると考えています。

## 医療など多様な用途期待

高分子と聞くと一般の人にとっては何の  
こと? という話かもしれません。しかし、  
プラスチックと聞けば知らない人はいない  
でしょう。高分子材料とは、酵素、タンパ  
ク質などの生体高分子から、プラスチック  
などの工業用材料、ナイロンなどの合繊織  
維と非常に幅広い材料です。日本のプラス  
チック生産量は、世界第2位で、1人あた  
り年間約100kg近く使用していること  
になります。私たちの生活に必要な材料の一  
つになっています。

これら高分子材料の代表的特徴として  
は、軽い、熱や電気を通しにくい、成形性  
が良いなどが挙げられますが、最近では、  
ノーベル賞に選ばれた「電気を通す高分子」  
や、耐熱性、高強度高分子など、さまざま  
な機能のものが生まれ、工業的に重要な役  
割を果たしています。

さて、このような高分子材料はどのよう  
に作られ、どのように特徴的な性質を発現